



## 文部科学大臣賞

もんぶかがくだいじんしょう

# 未来の田園風景

香川県香川大学教育学部附属高松中学校二年

高杉紗希

作文3部

私の母方の祖母のルーツは石川県能登地方の、昔の日本の田園風景が広がる全国有数の美味しい米どころです。秋になると、石川の親戚からとても美味しい新米が届くのを毎年とても楽しみにしています。

なぜ能登のお米がそんなに美味しいのか、以前遊びに行つた時に叔父さんが大変詳しく教えてくれました。能登半島は朝と夜の気温差がとても激しく、また冬の到来がほかの地域より早いぶん、収穫をほんの少し引つ張つて霜が降りるか降りないかのギリギリのところを見極めて収穫することが、甘くねばりのある美味しいお米を作るコツなのだそうです。

はどうして霜の降りるギリギリまで収穫しないかというと、土が凍みるか、凍みないかのところで、稻が寒さにギリギリまで耐えることで寒さに負けぬよう自らの体の中ででんぶんを作り出し、それがお米の最終的な美味しさを決めるのだと、とても熱く教えてくれました。普段何気なく口にしていたお米ですが、農家の方は季節の変わり目の微妙な気候と闘いながら美味しいお米作りを試行錯誤して作っていることを知り、頭の下がる思いがしました。また人類の長い米づくりの歴史の中で育んできたお米作りへの情熱や英知に感動しました。

私の住む屋島周辺も、三十年前はまだまだ緑の田んぼが多く広がっていたそうです。しかし、今では住宅ばかりでほとんど田んぼを目にすることはできません。

「どうして昔に比べて田んぼが減ったん?」と両親に聞くと、「それは減少の影響だよ」という答えが帰ってきました。そこで減反について調べてみたところ、減反とは田んぼでお米の量を減らし他の作物を作るようになれることがあります。しかし、日本人の減反政策に加え、日本人の国が進めることが解りました。減反政策に加え、日本人の

お米離れが進んだことも減反がさらに進んだ理由のようです。一番深刻なのは、お米作りに携わる人が年々減っていることかもしれません。

叔父が米作りをしている能登地方は過疎高齢化が大変深刻だそうです。私は能登へ行って緑広がる風景を見るとホッしますが、能登で叔父に車に乗せてもらっている時、母が

「能登は昔のまま変わらないね、日本の原風景のままという感じですごく良いわ。」

と何気なく言つたところ

「これが原風景だと思つか。」と叔父から思いがけない言葉が返つてきました。母と私がきよどんとしているところ

「よそから能登に遊びに来た人はみんなそう言う。でも俺はそう言う人は”違うよ、これは日本の未来の姿やよ”と言つとる。」

と寂しそうに言いました。その時私たちが目にしていた緑の光景は、もう高齢化で耕す人も居なくなつてそのままになつている放置田だつたのです。田んぼのあぜ道に、田んぼの名残を見ることができますが、もう何年もそのままになつてている田んぼの跡だったのです。叔父は「これは能登だけの光景ではなく、近い将来日本全国の風景になるよ、だから俺はこれを日本の未来の風景やと言うと。」

と続けて言いました。私は何も知らずにこれを日本の昔からの里山の風景だと思い込んでいた自分が恥ずかしくなると同時に、日本の米作りが直面している危機を叔父の言葉や表情に感じました。あんなに美味しいお米が近い将来食べられなくなるかもしれないのは本当に残念だし、先人達が長い間培つてきた米作りの技術も失われてしまうのは勿体ないことです。過疎高齢化の波は米作りにも深刻な影響を及ぼしています。私に出来ることは限られますが、もつと人々がお米に関心を持ち、生産者の苦労を知ることで、日本のお米の将来も少しずつ良い方向に向かうではないか、昔の田園風景の広がる日本の風景がまた見られる時代が来るよう願わざにいられません。